

カンナへの想ひ

「先生、今度平和学習の発表会の練習をするんで見に来てください」絵画塾に通って来ている小6の女の子から要請を受けた。

盛夏のその時刻に小学校に行った。体育館のフロアに座るとひんやりとして気持ちが良い。やがて幕が開き、三舩正典先生が作詞・作曲された「カンナ」の合唱が始まった。舞台では知るはずのない原爆投下時の模様を子供たちが演じている。ピアノ、照明係、小道具係等もすべて子供たちで行っている。

彼の小学校も校庭にカンナを植え、花が咲き終わると株分けし、全国・世界の学校へ「希望の花」として送っている。これは「平和カンナ・プロジェクト」の応援歌でもあるのだ。

この歌と劇は8月6日に広島国際会議場フェニックスホールで歌うとその子供が言っていた。

8月6日はヒロシマにとって特別な日である。ふたたび戦争をしてはならない。あやまちを繰り返してはならない。その想ひを引き継いでいる子供たちと教師に感動した。齡のせいか涙腺が緩んでしまい、子供たちに見られないように私は頬の水を手でぬぐった。頼むよ、若者！

